

集落構成の社会関係資本・社会共通資本からみる サステイナブル・コミュニティの理想に関する基礎的研究

—大分県姫島村におけるケーススタディー—

The ideal of sustainable community based on the social capital and social overhead capital
-A case study on Himeshima village, Oita Prefecture-

大分大学大学院 工学研究科 博士前期課程
工学専攻 建築・都市計画研究室
修士2年 安藤万葉

第1章

□背景・目的

日本の近代都市計画は、欧州の国土・地域計画に多大な影響を受けている。しかし、歴史的な背景や制度体制、地理条件等の違いから、わが国との「距離」を感じる

成長戦略の下、都市化をある部分まで容認してきたアメリカにおいて、これまでの都市計画の限界が課題として顕在化



旧来のコミュニティが備えていたサステイナブルな思想やデザインを見直すことで、
古き良き時代の地域のあり方から、持続可能な地域づくりのヒントを得ようとした

日本においても、国土計画のトピックスとして、
コンパクトシティや職住近接、徒歩圏構想等がある

古くから残る日本の集落においても叶えられてきたのではないか

特に、離島地域は、周辺の影響を受けにくく、
諸問題を独自に抑制・解決してきたため、
現在まで育まれた独自の地域コミュニティがあると考えられる。



このような原則を具現化させるためには、
地域が如何なる方法で、**維持や変容を遂げてきたか**を明らかにする必要がある。

既往研究

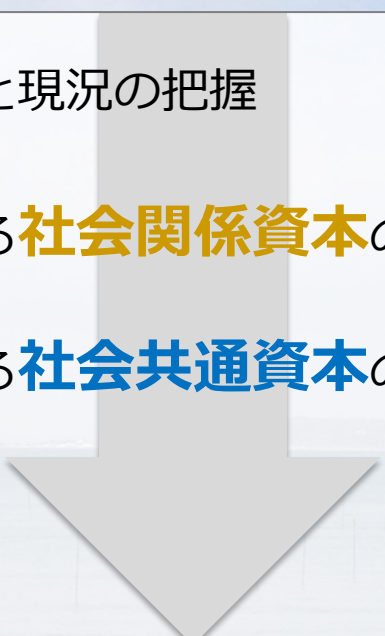
集落構造の変容過程などの**社会共通資本**の分析^{1) 2)}は行われているが、
地域運営に関する共同体などの**社会関係資本**の分析はされていない



目的

- ◆ 離島集落において現在まで継承されてきた**生活・生業や集落環境の持続性に関する規範意識や慣習**などの社会関係資本を明らかにする
- ◆ 社会関係資本・社会共通資本の両面から
サステナブルコミュニティの要件を明らかにする

研究方法



第2章 大分県姫島村の概要と現況の把握

第3・4章 姫島村の集落を支える**社会関係資本**の把握

第5章 姫島村の集落を支える**社会共通資本**の把握

第6章 **社会関係資本**・**社会共通資本**の両面から、
日本の集落におけるサステイナブル・コミュニティの要件を導出

対象地域：大分県姫島村

- ・瀬戸内海の西端，国東半島の北約6kmに位置する離島
- ・昭和50年に**離島振興法**の適用地域に指定され，生活産業基盤の整備などが積極的に行われてきた。現在も**一島一村**による地域運営を継続している。

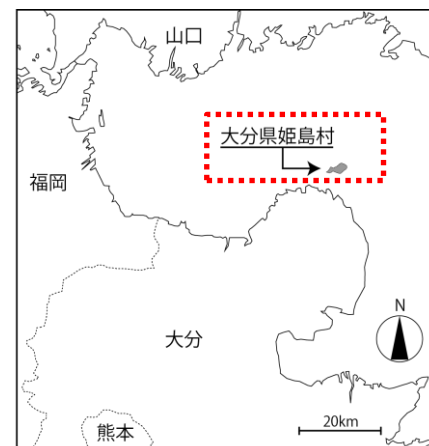


図1 姫島村の位置

基本属性

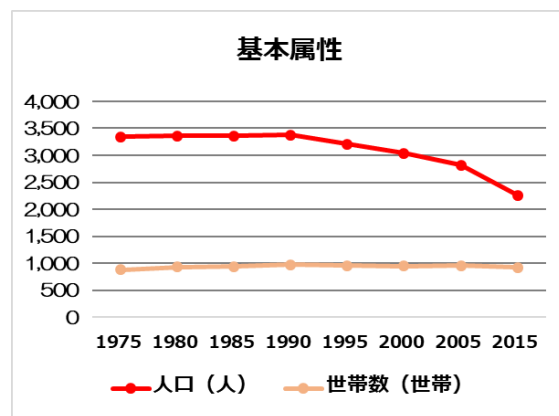


図2 基本属性経年変化

● 人口

平成2年（1990年）頃まで3400人程度を維持，それ以降は**減少傾向**（2259人：平成29年4月現在）

● 世帯数

昭和50年（1975年）から**約900世帯を維持**

全国の離島や集落において、昔から続く慣習などにより、人口や世帯数、生活基盤、産業等を増加または維持している事例の収集^{1) 2) 3) 4) 5) 6)}を行った

- ◇人口増加を続ける離島【坊勢島】
- ◇漁業コミュニティによる世帯再生産メカニズム【小呂島】
- ◇世帯の構成と再生産プロセス【北上山地山村集落】
- ◇貧窮漁村で行われた緊縮政策【玄海島】



キーワード

「土地や家屋の問題」「連帯感・仲間意識の醸成」「産業と担い手の問題」「困窮対策」

参考文献: 1) 山崎義人, 橋本大, 重村力, 山崎寿一, 杉野香織, 上野浩一『人口増加を続けてきた坊勢島の居住システムの考察』, 日本建築学会計画計画系論文集, 第612号, 57-62, 2007.2
2) 山崎義人, 橋本大, 重村力, 山崎寿一, 杉野香織, 上野浩一『坊勢島におけるライフステージに応じた地域内転居システム』, 日本建築学会計画計画系論文集, 第616号, 85-90, 2007.6
3) 山崎義人, 杉野香織, 重村力, 山崎寿一『ライフステージ毎にみた坊勢島における女性の交流の特徴-人口増加を続けてきた坊勢島にみる地域社会の持続に関する研究-』, 日本建築学会計画計画系論文集, 第624号, 341-347, 2008.2
4) 山内昌和『福岡県小呂島漁業コミュニティにおける世帯再生産メカニズム』, 地理学評論73A-12, 835-854, 2000
5) 安食和宏『北上山地の奥地山村集落における世帯の構成とその再生産プロセス』, 地理学評論 66A-3, 131-150, 1993
6) 宮本常一(1970)『日本の離島 第2集』, 株式会社未来社

これらの項目を **共同体**、**土地・家屋**、**産業**に分類し、内容をまとめた

〈**共同体**〉「連帯感・仲間意識の醸成」：住民同士の**相互扶助**に関する慣習

〈**土地・家屋**〉「土地や家屋の問題」：島内の**土地や家屋**に関する慣習

〈**産業**〉「産業と担い手の問題」：農業や漁業に関する慣習・独自のルール
就労の場や後継者の確保

「困窮対策」：島での**困窮時の対策**



姫島における**社会関係資本**について文献調査と、ヒアリング調査を行った

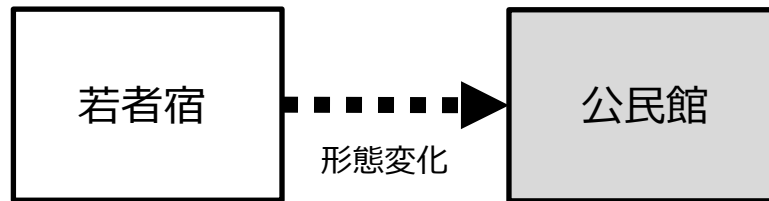
〈共同体〉

連帯感や仲間意識に関する慣習

『講』：講には、積み立てなどをして融通するなどの**経済的な講**と、神仏への信仰等に基づいて集まる**信仰的な講**が存在

無常講，**庚申講**，**伊勢講**，**大師講**，**金毘羅講**，**えびす講**などが存在

『**若者宿**』：中学を卒業した頃から**同世代の子と遊んだり寝泊まりしていた場所**



昭和3年まで存在し、
現在は公民館に変化



大海地区の公民館

〈共同体〉

連帯感や仲間意識に関する慣習

『船曳祭り』・『盆踊り』・『荒神祭り』

： 姫島を代表する祭事，準備から祭事後の直会まで，各地区の公民館を使用

公民館

盆坪

盆踊りの会場

・
練習場所



船曳き祭り

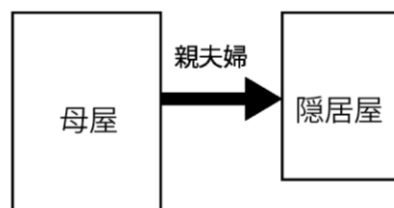


盆踊り

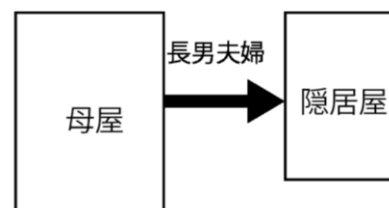
〈土地・家屋〉

土地や家屋に関する慣習

『**隠居**』：長男が結婚すると、両親が母屋を息子夫婦に譲り、**隠居屋へ移動**

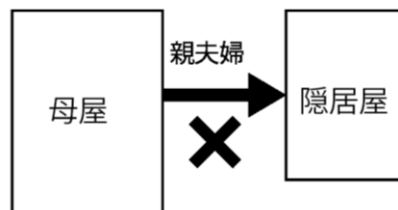


長男が結婚すると母屋を
長男夫婦に譲り**隠居屋へ移動**

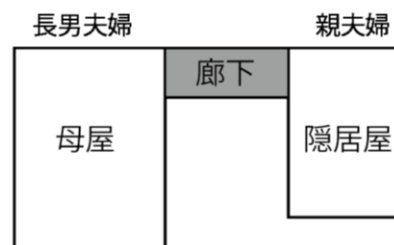


兄弟が多い場合は、**長男夫婦が
隠居屋で生活**することもある

形態変化



跡継ぎ夫婦がないため
母屋で生活を続ける



廊下などで建物をつなげ
二世帯のようにして暮らす

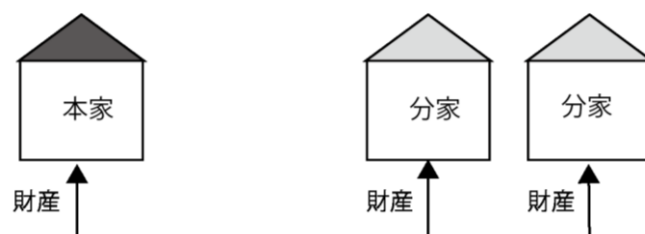
〈土地・家屋〉

土地や家屋に関する慣習

『**分家慣行**』：長男が本家を相続し、次男は結婚するとすぐ分家する慣習

『**次男坊住宅**』：村が塩田跡地を買い取り、**次男に安く提供**した土地

『財産分け』



本家の**家屋を除く財産**（田畑・山林など）は**本家と分家で折半**
漁業の場合も、同じ船の場合は**水揚げ高を折半**

分家してもすぐ土地の名義変更をしないため、税金や交際費等が本家より軽減され、分家は本家より暮らしやすいといわれていた¹⁾。⇒**人口増**

〈産業〉

産業に関する慣習

『**乗り初め**』：毎年1月2日に各地区の
恵比須社で
一年の豊漁を祈り参拝



昭和41年の乗り初め



西浦地区の恵比須社

就労の場・後継者の確保

家族での**漁労形態**が一般
長男子相続の原則により跡継ぎを
確保



見張り小屋



西浦地区の漁港

産業に関する独自の規制やルール

『**漁業期節**』：「共第8号漁業権行使規約」を定め、**乱獲**を避けている
明治37年から文章化された**漁業資源管理の仕組み**

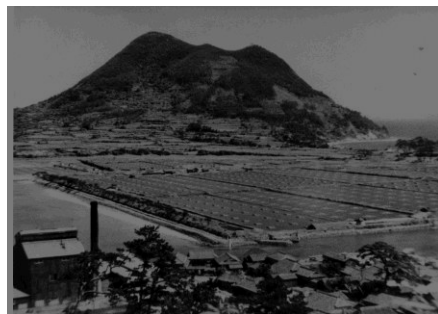
『**旅漁**』：姫島を離れ、**他地区で漁業に従事すること**

〈産業〉

困窮対策

半農半漁で自給自足の生活が成立していたため、島全体が困窮することはなかった

- ① 周防灘海域に位置するという地の利から、**海上交通の要所**として栄えていた
- ② 日照時間の長い気候や土質などの地の利を活かした**塩田業**と、それに伴い使役用として牛の飼育がはじまり、**畜産業も開始**された¹⁵⁾



塩田（昭和30年）



肉牛の出荷の様子（年代不明）



車えびの養殖場（現在）

時代の流れとともに、塩田業や畜産業は廃止されたが、塩田跡地を利用した車えびの養殖業が始まった。

姫島村では、時代の節目ごとに**半農半漁を支える複数産業が存在**

既往研究¹⁾で得られた，都市論における5つの評価指標
（交通，ゾーニング，境界，オープンスペース）と，調査により明らかになった
（生活空間）のもと，
集落構成・生活空間の空間的特徴や原則などの**社会共通資本**について分析する

姫島村の集落は，**季節風**と**地形**によって特徴的な構造が確認できる
特に，冬季の季節風である『アナジ』と集落構成・生活空間の関係が顕著にみえる
西浦地区と**大海地区**を対象

西浦地区

季節風の影響を
最も**受けやすい**地域



大海地区

季節風の影響を
最も**受けにくい**地域

図3 集落と季節風の関係

西浦地区



図4 集落構成図（西浦地区）

〈交通〉

海岸線に垂直な道路は狭くする

⇒地区内に強風が吹くことを防ぐ

最短距離で漁港に設けられた道（セド）

⇒居住と労働は相互に結びついている



セド

〈ゾーニング〉

『アナジ』の影響を最も受けやすい

⇒海岸沿いでは防風林

各家屋には暴風壁

家屋を建て込ませる

⇒強風の遮断と狭い土地の有効利用



西浦地区

西浦地区



図4 集落構成図（西浦地区）

〈境界〉

昭和47年に海岸沿いの整備が行われた。また以前は、集落の東側には塩田が広がっていた
⇒塩田廃止後は芋や麦の畑や宅地に変化

〈オープンスペース〉

恵比須社、見張り小屋、漁具庫、公民館、盆坪など、
漁業や祭事、社会関係資本の維持に関する共用空間が存在

⇒海岸沿いの整備後も継続して存在



漁具庫



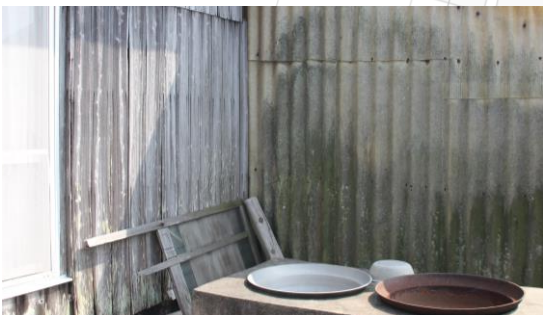
恵比須社

西浦地区

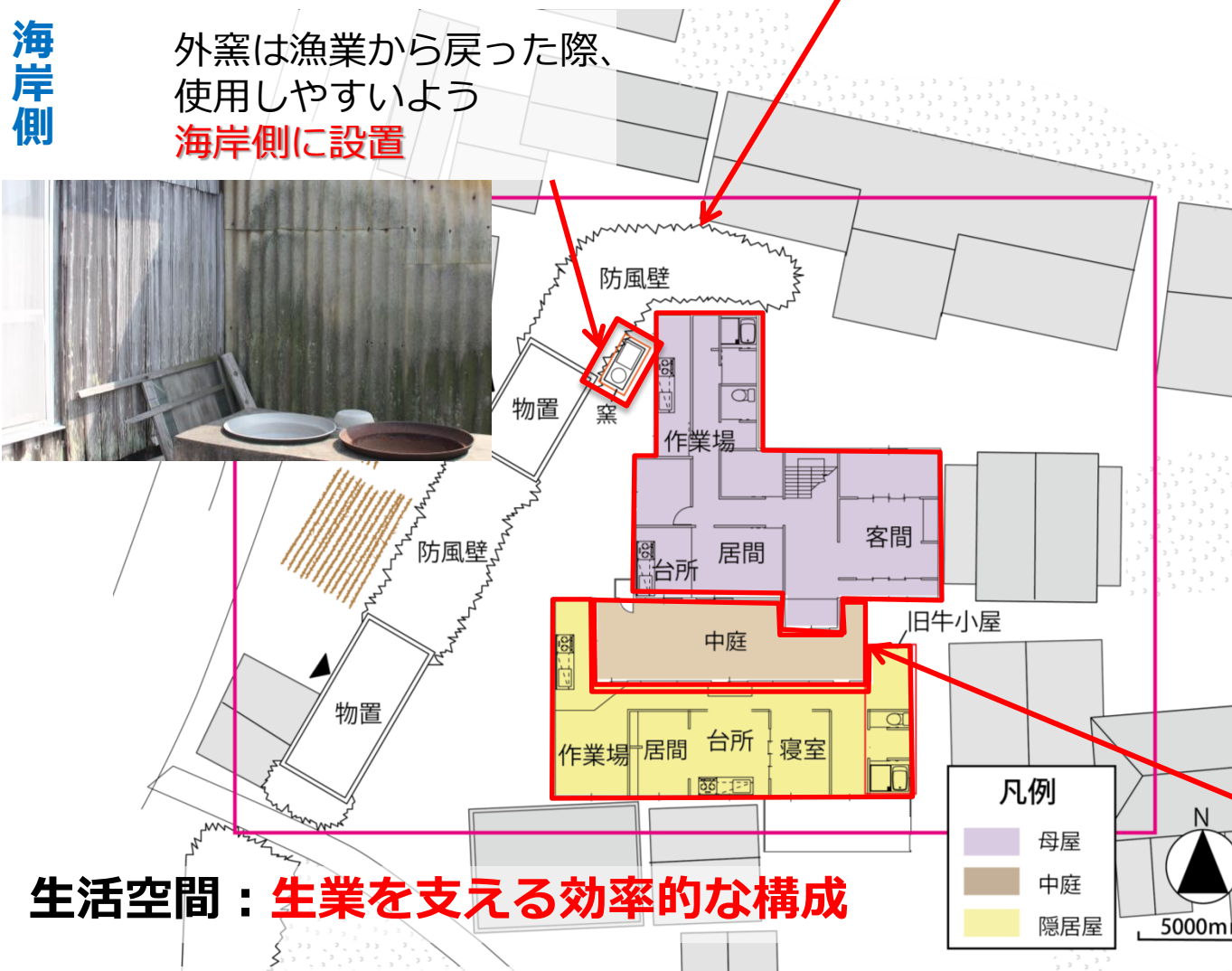
〈生活空間〉

海岸側

外窯は漁業から戻った際、
使用しやすいよう
海岸側に設置



家屋は海岸沿いに位置し、
西側に**暴風壁**が設けられている



中庭では、漁業や農業に関する作業をする広いスペースが確保されており、
半農半漁の生活を象徴

生活空間：生業を支える効率的な構成

姫島の人口を支えていた隠居慣行により
中庭を囲む**母屋**と**隠居屋**が確認できる

図6 集落構成図（西浦地区）

集落における社会関係資本・社会共通資本の評価指標として
〈共同体〉〈土地・家屋〉〈産業〉〈交通〉, 〈ゾーニング〉〈境界〉
〈オープンスペース〉〈生活空間〉の8つを抽出した。これらの評価指標を分類し,
以下5つの, **サステイナブルコミュニティの要件を明らかにした**

◇姫島村で確認されたサステイナブルコミュニティの要件◇

- 【共同体】** 相互扶助を実現する**地域共同体**や世代間で**慣習を引き継ぐ仕組み**の存在
〈共同体〉
- 【産業】** 徹底した**資源管理**と**後継者確保**の仕組み, 生活を支える**複数産業**の存在
〈産業〉
- 【交通】** 『セド』により**居住と労働場所が結びついている**
〈交通〉
- 【オープンスペース】** 姫島村における地域活動の際に, 住民の利用頻度の高い
公民館や生業に関する施設が各地区に**継続して存在**
〈オープンスペース〉
- 【集落特性と生活・土地利用】** 集落特性を活かし, 工夫された**集落構成**や**家屋**
〈土地・家屋〉 〈ゾーニング〉 〈境界〉 〈生活空間〉

◇総括◇

本研究では、大分県姫島村を対象に、集落における社会関係資本，社会共通資本，またその両面からみた，**サステナブルコミュニティの要件を明らかにした**

これらの要件を今後も継続させていくことが重要であるが，時代に合わせながら，**要件を変化させ，継続させる**ことも重要

◇今後の課題◇

- ① 【産業】に関する規制の『漁業期節』は，1980年代に新技術が投入され，漁獲量が大幅に上昇したにも関わらず，『漁業期節』の条文は対応しておらず，**実質的な規制ができてない**



時代に沿った新たな規制を設け，**資源を保全**

- ② 姫島村は，地の利を活かした複合的な産業を続けてきたことにより，自給自足の生活を支えてくることができた



地の利を活かした**新たな産業を発見**していく